

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
分担研究報告書

肝疾患診療ネットワークにおける地域中核病院の役割と病診連携に関する研究

研究分担者 吉澤 要 国立病院機構信州上田医療センター 地域医療教育センター部長

研究要旨 肝疾患診療ネットワークにおける病診(病病)連携の推進のため、積極的な講演や医師会活動を行った。その結果、かかりつけ医と良好な関係を築き、多くの紹介患者に対して、連携パスを使用して、日常管理と専門治療を分担することが可能になった。また、患者アンケートから、当地区の患者の実情を解析し、日常生活での悩み、かかりつけ医との信頼関係構築、専門治療における注意や助成制度の説明等、肝疾患相談員の役割、育成の必要性が示された。

A . 研究目的

長野県における肝疾患診療ネットワークは、信州大学医学部附属病院を肝疾患診療連携拠点病院とし、2次医療圏ごとに肝疾患専門医療機関を設置して2008年10月にスタートした。当院は、人口約21万人の2次医療圏唯一の肝疾患中核病院である。当院での病診連携パスを用いた、かかりつけ医との病診連携の現状と課題につき検討した。また、当地域における肝疾患患者実態調査をアンケート形式で行い、カルテでは解析できない、生活実態や悩みなど含めた現状を分析し、かかりつけ医との病診連携や拠点病院との高度医療を含めた病病連携における肝疾患相談員の役割の検討を目的とした。

B . 研究方法

パスの使用状況、病診連携、病病連携の状況を解析した。さらに、これらを円滑に行うための市民講座・医師会向け肝疾患講演会などの活動を評価した。また、患者アンケート対象は2013.10.1-12.31の間に肝臓外来を受診した、1年以上通院歴のある患者246例。

(倫理面への配慮)

アンケートは無記名であり、個人情報漏れることはない。

C . 研究結果

県内共通の病診連携パス(肝炎パスポート)を積極的に活用し、患者にはかかりつけ医を必ずもつよう指導している。連携している患者のほぼ100%に使用し、情報交換に有用であるとかかりつけ医からの評価を得ている。しかしながら、当院ですべてを診てもらいたいと希望する患者も多く、かかりつけ医を持たない患者も約半数いる。医療機関に対しては、肝疾患講演会を開催し、さらに、医師会活動にも積極的に参加し、かかりつけ医との信頼関係を築いてきたため紹介患者が増加し、核酸アナログ薬やインターフェロンなど専門的な治療に結びつくなどの成果がでている。かかりつけ医には積極的にパスを活用し、日常管理をお願いしている。

患者実態アンケートの有効数は214(87.0%)。60歳以上が2/3、80歳以上も12%。居住地は市内が90%近く、通院も30分以内が3/4、ほとんど一時間以内。ウイルス性肝疾患が約半数、肝細胞癌約10%、自己免疫性肝疾患17%であった。約80%は、2-3ヶ月に1度通院の非重症例で、交通費を含めた医療費も62%は月5千円未満、72%は年間10万円未満であった。拠点病院紹介は26%で、肝細

胞癌手術、肝動脈塞栓術など治療目的とC型肝炎患者での遺伝子検査(IL28SNP)であった。病診連携は浸透し、80%以上で満足、また、拠点病院との連携も80%で満足であったが交通の便には不満もあった。

D . 考察

肝疾患患者は、高齢者が多く、高血圧や糖尿病など他の疾患を持つ患者に対しては日常生活、服薬、栄養等の指導が重要となってくる。未だにかかりつけ医を持たない患者に対して、相談員が仲立ちとなって、病診連携を推進していくことが求められる。また、インターフェロン、インターフェロンフリーの経口2剤や核酸アナログ製剤、肝がん治療においても、助成申請や治療上の指導、拠点病院との病病連携などの相談に相談員の役割は大きいと思われる。

E . 結論

今後、合併症を持つ高齢者がますます増加するため、病診連携、病病連携が重要性を増し、また、現在養成している肝疾患相談員の役割が重要となってくるとと思われる。

F . 研究発表

1 . 論文発表

- 1) Umemura T, Ota M, Katsuyama Y, Wada S, Mori H, Maruyama A, Shibata S, Nozawa Y, Kimura T, Morita S, Joshita S, Komatsu M, Matsumoto A, Kamijo A, Kobayashi M, Takamatsu M, Yoshizawa K, Kiyosawa K, Tanaka E. KIR3DL1-HLA-Bw4 combination and IL28B polymorphism predict response to Peg-IFN and ribavirin with and without telaprevir in chronic hepatitis C. Hum Immunol 2014; 75:822-826
- 2) Nozawa Y, Umemura T, Katsuyama Y, Shibata S, Kimura T, Morita S, Joshita S,

Komatsu M, Matsumoto A, Yoshizawa K, Ota M, Tanaka E. Genetic polymorphism in IFNL4 and response to pegylated interferon- and ribavirin in Japanese chronic hepatitis C patients. Tissue Antigens. 2014 Jan;83(1):45-8.

3) Okuhara S, Umemura T, Joshita S, Shibata S, Kimura T, Morita S, Komatsu M, Matsumoto A, Yoshizawa K, Katsuyama Y, Ota M, Tanaka E. Serum Levels of Interleukin-22 and Hepatitis B Core-related Antigen Are Associated with Treatment Response to Entecavir Therapy in Chronic Hepatitis B. Hepatol Res. 2014; 44:E172-180

4) Morita S, Matsumoto A, Umemura T, Shibata S, Kamijo N, Ichikawa Y, Kimura T, Joshita S, Komatsu M, Yoshizawa K, Tanaka E. Characteristics and prediction of hepatitis B e-antigen negative hepatitis following seroconversion in patients with chronic hepatitis B. Hepatol Res. 2014;44: E45-53

2 . 学会発表

- 1) 吉澤 要, 森田 進, 中村 晃, 奥原禎久, 藤森一也, 滋野 俊, 堀内尚美, 手島優子, 上原静枝, 中村幸子, 田中清美 . 肝疾患患者の実態調査と病診連携、病病連携 . 第68回国立病院総合医学会 . 横浜 2014.11.15
- 2) 吉澤 要, 森田 進, 沖山 洋 . 一地方都市の急性肝炎の実態 . 第40回日本肝臓学会東部会 . 東京 2014.11.28

G . 知的財産権の出願・登録状況

なし。